<table>
<tr><td>授業名</td><td colspan="3">地域課題 PBL　E（横断テーマ・フィールド型）</td></tr>
<tr><td>英文授業名
※大学によっては英文成績通知書の記載のために必要となりますので，必ずご記入ください。</td><td colspan="3">Regional Problem-Based Learning Couse E (Cross-Disciplinary Fieldwork-Based)</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td colspan="3">2026 年度 通年（集中）</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">2 単位</td></tr>
<tr><td>授業提供大学</td><td colspan="3">信州大学</td></tr>
<tr><td>主担当教員氏名</td><td colspan="3">佐々木　康浩</td></tr>
<tr><td>副担当教員氏名</td><td colspan="3">勝亦　達夫・宮木　慧美・田嶋　朝羽</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業のねらい
※該当しないもの行は削除してください。

※授業で得られる地域活性化人材の能力と対応するように本授業の達成目標を設定してください。

※「～することができるようになる」「～することができる」という形での目標設定を推奨します。</td><td>授業で得られる
地域活性化人材の能力</td><td>⇔</td><td>本授業の達成目標</td></tr>
<tr><td>α　信州の活性化に係る知識・技能</td><td>⇔</td><td>・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。</td></tr>
<tr><td>β　信州の活性化に係る課題を
発見・解決するための思考力・
判断力・表現力</td><td>⇔</td><td>・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。</td></tr>
<tr><td>γ　信州の活性化に係る課題を
主体的・対話的に発見・解決
しようとする態度</td><td>⇔</td><td>・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。</td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="3">本授業は、地域社会が抱える具体的な課題を題材に、学生が自ら「課題設定」から「解決策の提案」までを行う PBL（Problem-Based Learning）形式の科目である。
学生は、連携先の自治体・企業・NPO 等から提供されるテーマに基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。
本科目は共通の全体構造に基づき設計されているが、コースごとにアプローチ手法（モノづくり、フィールドワーク、ワークショップ等）が異なる。
本講座は、【 E コース（横断テーマ・フィールド型） 】として実施する。</td></tr>
</table>

授業の計画	本授業は、学生が主体となり、自治体・企業・NPO 等の「受入主体」と連携して地域課題の解決に挑む実践型プログラムである。学習プロセスは、以下の 5 段階で構成される。 ①インプット：地域の現状や背景を深く理解し、情報を収集する。 ②課題設定：現状分析に基づき、解決すべき本質的な問題を特定する。 ③ワーク：課題解決に向けた具体的な提案を練り上げ、実践と検証を行う。 ④発表：成果を可視化し、プレゼンテーションを行う。 ⑤評価：活動プロセスと成果を振り返る（ポートフォリオの記入）。 各コース（テーマ）の特性に応じた柔軟な期間・手法を用いつつ、学内外で実施する。 最終成果は全コース合同の発表会にて共有し、多様な視点からの学びを深める。 本授業では、実際のプロジェクトで課題を課遣いながら実施する。 ①長野県日本酒振興プロジェクト 本プロジェクトでは、長野県の各地の地酒を題材に、地域産業と文化の魅力を実践的に探究する。酒蔵や関係事業者へのフィールドワークやヒアリングを通じて、日本酒の歴史・製造・流通・消費の仕組みを学び、地域が抱える課題や可能性を多角的に分析する。その上で、商品企画、ブランディング、プロモーション、イベント提案などに取り組み、実社会とつながる提案を行う。地域の現場と協働しながら、課題設定力、企画力、コミュニケーション力、チームでの実践力を高め、地域と産業の未来を構想する力を養う。 ②AI 共生時代における豊かな暮らしを実現するための地域課題解決プロジェクトやデジタル技術を活用しながら、身近な社会課題や地域課題を発見し、解決策を構想・実践する。個人や社会に潜在する課題を再定義し、デジタルツールや AI を活用した解決プロセスを設計・検証する。企業・地域との連携を通じて、課題設定力、思考力、協働力、実装力を総合的に高める。 内容 第 1 回　ガイダンス・プロジェクトの理解 授業の目的、PBL の進め方、評価方法を説明するとともに、地域活性化をテーマとしたプロジェクトの概要と最終ゴールを共有する。 第 2 回　目標設定と課題構造化の基礎 地域や産業を取り巻く構造や現状を理解し、課題を整理・構造化するための基本的な考え方や手法を学ぶ。 第 3 回　課題に対する基礎知識の習得 対象となる地域や産業、地域資源に関する基礎知識を学び、地域課題を考えるための前提理解を深める。 第 4 回　課題の背景・要因分析 文献やデータ等を用いて、地域課題が生じている背景や要因を調査・分析し、課題の本質を捉える 第 5 回　現場理解（ヒアリング・フィールドワーク等） 地域や現場に関わる当事者からの講話等を通じて、現場視点での課題を理解し、これまでの学びを振り返る。 第 6 回　課題の再定義・問いの設定 これまでのインプットを踏まえて課題を整理・再定義し、プロジェクトとして取り組む問いを言語化する。あわせてチーム編成を行う。 第 7 回　事例研究・アイデア発想 地域活性化や若者向け PR・イベント等の事例を学び、課題解決に向けたアイデア発想の方法を習得する。 第 8 回　課題解決提案の作成①（コンセプト設計） 企画設計の基本を学び、チームごとに課題解決に向けた企画案（たたき）を作成する。 第 9 回　課題解決提案の作成②（具体化・ブラッシュアップ）

	企画や運営上の条件を整理し、実現可能性の観点から企画内容を検討・改善する。 第 10 回　課題解決提案の作成③（実行計画） 計画や運営設計を具体化し、当日の役割分担や実施計画を策定 第 11 回　課題解決実践①（準備・リハーサル） 企画実施に向けた準備を行い、進行や役割分担の確認、リハーサルを通じて実践力を高める。 第 12 回　課題解決実践②（実施/実働） 地域をフィールドとしたイベントや企画を実施し、課題解決の実践を行う。 第 13 回　課題解決実践③（実施/実働） 地域をフィールドとしたイベントや企画を実施し、課題解決の実践を行う。 第 14 回　発表・評価①　成果発表に向けた分析・振り返り 実践内容や成果を振り返り、課題・取組内容・成果・学びを整理した発表資料を作成する。 第 15 回　発表・評価②　成果発表・ポートフォリオ作成 チームごとに成果発表を行うとともに、活動プロセスと成果を振り返り、ポートフォリオを作成する。 授業アンケート（大学共通・ShinXia 個別）の提出を行わないと最終課題を提出できません。 合同成果発表会　発表・評価③ 　相互評価の場として開催し、他プロジェクトや関係者との合同成果発表を行い、学びを共有するとともに地域や社会への発信を行う（後期に開催予定で、参加は任意ですが、参加を推奨する）。 ・地域の方や協力者を招いた公開報告会での講評と総括
評価 ※100 点満点の点数をどのように付けるのかを記載ください。(小テストの回数や配点等)	・課題設定と分析：20 点 ・中間発表とフィールドワークへの参加：20 点 ・最終提案と発表：30 点 ・個人ポートフォリオおよび最終レポート：20 点 ・協働的態度と学習姿勢：10 点 　合計：100 点 　本授業では、学修目標の達成状況を総合的に評価します。評価は、課題に対する取組状況やチームでの貢献、個人での学習成果、発表・レポート等をもとに以下の基準で行います。 ・課題設定・分析の過程において、地域課題に対する理解を深め、適切な問いを設定できていること。 ・チーム内での協働的な姿勢をもち、役割を果たしていること。 ・イベント実施・発表において、企画意図や成果を的確に伝えることができていること。 ・各回の学びや成果をポートフォリオに丁寧に記録し、自己の成長や学びを客観的に振り返ることができていること。 ・事前学習・事後学習を含め、全体として「合格水準にある」こと。 期末時にすべての合計点を基に、授業の達成目標に対して 5 段階で判断を行う 90 点以上:秀(基準から卓越している)　80 点以上:優(基準よりも、かなり上にある) 70 点以上:良(基準よりも、やや上にある)　60 点以上:可(基準を満たしている)　59 点以下:不可(基準を満たさない)
事前事後学習の	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成

内容	
履修上の注意	・授業の詳細な内容は、各コースの LMS・ガイダンス等で説明するので、確認の上受講をしてください。 ・グループワークが中心となるため、出席と積極的な関与が求められる。 ・外部機関との連携や現地での活動があるため、受講にあたってはフィールドワークがあることを留意してください。授業のガイダンスで内容を確認の上、受講してください。 ・授業は不定期集中で実施する。講義は各地を繋いで実施するため、オンライン／オンデマンドを用いて実施することがある。
教科書	特に指定しません。
参考書	特に指定しません。